

引用文献

- American Association of Neuroscience Nurses, American Nurses Association. (2013). Scope of Neuroscience Nursing Practice. Neuroscience Nursing: Scope and Standards of Practice (2nd ed.) (pp1-30). American Nurses Association, Inc
- Becker, D., Kaplow, R., Muenzen, P. M., & Hartigan, C. (2006). Activities performed by acute and critical care advanced practice nurses: American association of critical-care nurses study of practice. American Journal of Critical Care : An Official Publication, American Association of Critical-Care Nurses, 15(2), 130.
- 馬場尊, 才藤栄一 (2001). 摂食・嚥下障害の診断と評価. 日独医報, 46(1), 17-25.
- Hamric, A. B., Hanson, C. M., Tracy, M. F., O'Grady, E. T., (2014/2017). 中村美鈴, 江川幸二 (監訳)(2017). 高度実践看護統合的アプローチ (pp.330-360). へるす出版.
- 兵頭 政光. (2009). 加齢に伴う嚥下機能の変化様式. 耳鼻咽喉科展望, 52(5), 282-288.
- 藤原葉子, 長谷公隆, 永島史生, 沖塩 尚孝. (2015). 急性期病院における嚥下障害患者の意識レベルと経口摂取確立の成否との関係. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会誌, 19(2), 117-126.
- 池川清子. (2006). 看護 生きられる世界の実践知 (pp11-60). ゆみる出版.
- 稲垣麻恵, 織田洋輔, 松下一紀, 松波香苗, 柴田孝, 堀江幸男, 高岩亜輝子. (2013). 急性期脳卒中患者の誤嚥性肺炎発生が早期離床に与える影響. みんなの理学療法, 25, 35-37.
- 稲本陽子, 保田祥代, 小口和代, 才藤栄一. (2003). 脳血管障害による摂食・嚥下障害患者の分析 嚥下訓練前後の変化 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌, 7(2), 117-125.
- 城ヶ端初子. (2007). やさしい看護理論 2 ケアとケアリング 看護観をはぐくむはじめの一步, メディカ出版.
- 川原由佳里. (2013). 看護の知 実践を読み解くための新しい知の考え方 看護の科学社.
- 近藤克則, 二木立. (1988). 急性期脳卒中患者に対する段階的嚥下訓練, 総合リハビリテーション, 16(1), 19-25.
- 厚生労働省. (2017). 平成 29 年(2017)人口統計(確定数)概況
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei17/index.html>
- 厚生労働省. (2016). 平成 28 年国民生活基礎調査の概況
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/dl/16.pdf>

- 厚生労働省. (2019). e-ヘルスネット,脳血管障害・脳卒中 <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/metabolic/m-05-006.html>
- 公益社団法人日本 WHO 協会 (2017). 死亡原因トップ 10 https://www.japan-who.or.jp/event/2017/AUTO_UPDATE/1702-2.html
- 前島伸一郎, 大沢愛子, 棚橋紀夫 (2013). 急性期脳出血における摂食・嚥下障害の検討, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 50(4), 290-297.
- 前島 伸一郎, 大沢 愛子, 田澤 悠, 宮崎 泰広, 山根 文孝, 石原 正一郎, ... 棚橋 紀夫. (2011). 脳卒中に関連した肺炎 急性期リハビリテーション介入の立場からみた検討. 脳卒中. 33(1):52-58.
- 箕岡真子, 藤島 一, 稲葉 一人. (2014). 摂食嚥下障害の倫理 (pp69-88). ワールドプランニング.
- 中島誠, 稲富雄一郎, 米原敏郎, 藤岡正導, 内野 誠. (2003). 脳梗塞急性期の嚥下障害と入院時嚥下評価の意義. 環境感染, 18(1), 1-5.
- 永井 敏枝. (2005). 看護技術について. 富山医科薬科大学看護学会誌, 6(1), 1-4.
- 西将則, 武原格, 猪飼哲夫, 宮野佐年. (2006). 経鼻経管栄養チューブが嚥下に与える影響 嚥下回数,食塊残留・逆流への影響. リハビリテーション医学, 43(4), 243-248.
- 西田絵美. (2018). 看護におけるの基底原理への視座 とは何か. 日本看護倫理学会誌, 10(1), 8-15.
- 日本理学療法士協会.(2018). 会員の分布 <http://www.japanpt.or.jp/about/data/statistics/>
- 日本言語聴覚士協会.(2019). 会員動向 <https://www.japanslht.or.jp/about/trend.html>
- 日本作業療法士協会.(2017). 会員統計資料 <http://www.jaot.or.jp/wp-content/uploads/2018/11/6fac4aebf9b1a54512df0b5bf8a64844.pdf>
- 日本気道食道学会.(n.d)嚥下障害. <http://www.kishoku.gr.jp/public/disease04.html>
- 日本看護協会.(n.d).資格認定制度 専門看護師 .
<http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns>
- 日本看護協会.(n.d). 資格認定制度 認定看護師 .
<http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>
- 大沢愛子, 前島伸一郎, 棚橋 紀夫 (2012). 脳卒中患者における食物嚥下と液体嚥下 フードテストと改訂水飲みテストを用いた臨床所見と嚥下造影検査の検討. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 49(11), 838-845.

- 大熊るり, 木下牧子 (2010). 回復期リハビリテーション病棟における気管切開患者の転帰. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 47(1), 47-53.
- 大野綾, 藤島一郎, 大野友久, 高橋博達, 黒田百合 (2006). 経鼻経管栄養チューブが嚥下障害患者の嚥下に与える影響. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌, 10(2), 125-134.
- 太田智樹, 武久洋三, 池村健, 濱部典子, 吉田操, 中川賢, 池田友記 (2017). 積極的な摂食嚥下訓練の効果の検証. 日本慢性期医療協会誌, 25(2), 80-85.
- 小口和代, 才藤栄一, 水野雅康, 馬場尊, 奥井美枝, 鈴木美保 (2000). 機能的嚥下障害スクリーニングテスト「反復唾液嚥下テスト」(the repetitive saliva swallowing test:RSST)の検討(1) 正常値の検討. リハビリテーション医学, 37(6), 375-382.
- 小口和代, 才藤栄一, 馬場尊, 楠戸正子, 田中ともみ, 小野木啓子 (2000). 機能的嚥下障害スクリーニングテスト「反復唾液嚥下テスト」(the repetitive saliva swallowing test:RSST)の検討(2) 妥当性の検討. リハビリテーション医学, 37(6), 383-388.
- 小楠範子, 萩原久美子 (2009). 胃瘻造設を余儀なくされた高齢者の家族の思い 胃瘻造設後、再び経口摂取可能となった高齢者の家族に焦点をあてて. ホスピスケアと在宅ケア, 17(3), 275-281.
- 酒向正春. (2015). 第2部 脳卒中診療のエビデンス [1]急性期脳卒中の実態 15. 急性期リハビリテーションの実施状況と予後 (p48). 小林祥泰(編). 脳卒中データバンク. 中山書店
- 佐藤理恵, 中村友香, 石田敬子, 中井美佐子, 今田直樹, 島田節子, ... 荒木 攻 (2015). 脳卒中急性期における早期口腔ケア介入による誤嚥性肺炎の予防効果と qol. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌, 19(2), 136-144.
- 才藤栄一, 千野直一 (1991). リハビリテーション領域における嚥下障害 脳血管障害による嚥下障害のリハビリテーション. 総合リハビリテーション, 19(6), 611-615.
- 松尾浩一郎, Jeffery B. Palmer. (2016). 基礎編 4章摂食嚥下のモデル. 才藤栄一, 植田耕一郎 (監). 摂食・嚥下リハビリテーション(第3版). 医歯薬出版
- 菅原郁子, 藤光志穂, 佐藤朋子, 濱田由梨香, 野田千恵子, 長出歩, ... 林 裕子. (2007). 急性期からの摂食・嚥下アプローチ 高次脳機能障害と臨床重症度分類に焦点を当てて. 日本脳神経看護研究学会会誌, 30(1), 55-58.
- 鈴木裕 (2012). 胃ろう栄養の適応と問題点. 日本老年医学会雑誌, 40(2), 126-129
- 高野大樹, 長田乾. (2015). 第2部 脳卒中診療のエビデンス [1]急性期脳卒中の実態 10. 脳卒中急性期死亡率の解析(p36). 小林祥泰(編). 脳卒中データバンク. 中山書店

- 田中和子, 堀内ふき (2011). 脳血管障害により胃瘻を造設している在宅療養者の経口摂取併用に関する課題と主介護者からみた意味. 老年看護学, 15(2), 73-79.
- 筒井真優美. (1993). 看護におけるケアリングの概念 ケア/ケアリングの概念. 看護研究, 26(1), 2-13.
- 卯野木 健. (2009). AACN synergy model for patient care とは一よりよい看護実践と CNS に必要な能力. 看護研究, 42(3), 207-21